

# 伊理正夫先生のご逝去を悼む

一般財団法人日本デジタル道路地図協会 専務理事

元 国土地理院長 稲葉 和雄

東京大学名誉教授で前日本測量調査技術協会会長の伊理正夫先生が8月13日にご逝去されました。先生のご経歴については、皆さんよくご存じのことと思いますので、敢えて繰り返すことはしません。

国土地理院では、昭和49年から地形図を数値化する国土数値情報整備事業を行っていました。当時、計算機や入力機器の能力が限られているなかで、世界的に見ても類をみない先進的事業でした。データ整備に当たっては、「国土数値情報整備手法検討委員会」を設置し、伊理先生に委員長をお願いしました。整備に際して、先生は品質、精度等と、予算・技術・作業期間の制約を勘案し、常に適切な方向を示されました。データが大きな問題もなく順調に整備されたのは、先生の優れたバランス感覚と合理性に依るところが大きかったと思います。国土数値情報は行政目的に使われましたが、残念ながら一般へは研究目的等限られた場合にしか提供されませんでした。先生は、できるだけ多くの人に利用されるよう希望されていましたが、国土地理院はデータの品質に確信が持てない等の理由で、一般提供には後ろ向きでした。先生は、「いろいろと使ってもらい、たとえ内容に誤りがあっても、修正することによりデータの品質が向上する。」と仰っていました。情報は利用されてこそ意味があるという先生の信念の感じられる言葉でした。

平成5年にISO（国際標準化機構）から、地理情報の標準化を行うISO/TC211設置の提案があったとき、測技協が国内審議団体となり、我が国も国際標準作成に参加することになりました。その時に、日本の意見・提案を検討する場として、国内委員会を設置し、伊理先生に委員長に就任していただきました。当初、委員の選定に当たり、先生に顧問としてご指導いただけるようお願いに行ったところ、顧問などという中途半端な立場でなく、委員として参画したいと言われ、それではヒラ委員という訳にはいかないので、委員長をお願いした次第です。良質の空間データが、相互利用可能な形で流通するためには、標準規格が不可欠とお考えで、委員長を引き受けてくださったのだらうと思っています。

40年くらい前になりますが、私が就職活動しているときに、伊理先生に国土地理院を紹介いただきました。その時に、「国土地理院は戦前には陸軍に属していて…」という説明を受け、先生が何でそんな細かいことをご存じなのかと不思議に思いました。後に判明したのですが、先生の御尊父が、工兵中佐として国土地理院の前身の陸地測量部に在籍しておられました。そのような事情もあったのでしょうか、先生は国土地理院や測量界に対し常に温かい眼差しで、ご指導くださいました。

若い人たちに贈る言葉を一度先生にお聞きしようと、周囲の人と話していたのですが、今ではそれも叶わなくなりました。先生は、天国で何を語っていらっしゃるのでしょうか？心からご冥福をお祈りいたします。